

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302628		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(上ノ台) 1F		
所在地	福島県郡山市富田町字向作田25番1号		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境は住宅密集はしているもの、まだ近くに田園風景や野菜畑が残り、心豊かに眺めながら楽しく散歩できます。職員も20代～60代まで幅広く働き、より家庭的な環境作りに勤めています。地域との密着、連携も深まり地域清掃活動や資源回収も積極的に参加させて頂き、事業所の夏祭りや避難訓練では地域の方のご参加も得られ双方向での交流が深まっています。又家族会も年2回活動し、夏祭りでは協力頂きました。毎月、広報発行し、ご利用者様お一人おひとりの生活状況をご家族様に報告。来所時も近況報告。より深い関係強化に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議は活発で委員の意見も多く出されている。地域の行事に参加したり、事業所の行事に多くの参加者がある等、地域の交流も活発に行われている。
2. 避難訓練は毎月実施され、消防署の立ち会いのもと夜間の訓練も行われ、訓練の反省も行われている。
3. 家族会と合同で忘年会が開催される等、協力を得ながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由」「家族の絆」「地域に密着し地域に開放された場として交流を深める」を理念とし、毎朝職員は唱和し、実践に繋げている。自由では、自分好きな時間に、入浴や食事をする事もでき、家族の絆では夫婦部屋に入所。地域密着・・では地域の方参加の避難訓練など実践に繋げている。	法人の理念を基に職員全体会議で検討し、事業所独自の理念を作成した職員は自分たちが決めたという自負を持っており理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時に近隣の方と挨拶し、ホームの花壇や畑と一緒に花の苗や野菜を植え、日常的な交流を深めている。地域のクリーン作戦・他清掃等にも町内会一員として参加しています。地域の方を招待し8月は夏祭りを実施し、踊りを踊って頂きました。	地域の行事には参加しており、事業所の行事は町内会を通して案内し地区の参加を得ている。特に夏祭りは好評であった。保護者会と合同の忘年会に地域の代表を招待するなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加して下さる避難訓練時等に、認知症の人の理解をして頂くと共に、支援方法等の質問があった場合説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的2ヶ月に1回開催計画を立て6回実施しました。会議メンバーの町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所第三者委員、家族が役員となり、事業所の現況報告、行事、外部評価、地域との連携、広報、防災訓練など検討している	定期的開催し事業所の事業報告・行事・地域との連携等協議され委員も積極的に意見・要望を出している。提案された意見を取り入れサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	郡山市の介護相談員に1ヶ月2回来て頂き、ご指導頂き、サービスの向上に努めている。	利用者の状況報告等、市との連携は常時行われており、協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の施設内研修会を実施し、全ての職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めています。玄関の施錠は安全を確保しつつ、自由な生活が出来るよう見守り徹底し開放している。	利用者との話し合い、見守り、行動パターンの把握等により身体拘束は絶対しないケアに努めている。玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について施設内研修会を実施し、虐待について知識や理解を深め、職員は1人1人に尊厳を持って介護を提供し、虐待は絶対行っていけない。見逃さないの姿勢で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について、深く学ぶ機会は少なく、職員全員制度理解が深まっていない。今後学習会を増し、活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の訪問を含め、ご利用者様やご家族様の不安や疑問点について、十分な説明時間を取り、理解を深めてもらい、契約の納得、締結を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に苦情相談ポスト設置。御家族様面会時や来訪時に職員や管理者が要望を直接伺い運営に反映している。相談員も継続し受け入れ、ご利用者様や御家族様が意見を外部に表せる機会を設けている。	家族会を立ち上げ、出された家族会の意見・要望を運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回以上のミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。本社、管理者会議が月1回あり、その時、代表者から話あり、機会がある。管理者、会議報告し職員が捺印。職員の意欲向上や質の向上に反映している。	管理者は月1回の各ユニット会議に出席し職員の意見を聞いたり、3ヶ月に1回の個別面談を行い職員の意見・提案の業務への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は就業環境の整備に努め、人員他必要なことは管理者会議で報告し、職員の処遇改善に努めている。各自が向上心を持って働けるように、年2回～3回の職員面接と目標設定・実践・自己評価等も実施し、職場内環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としては、教育委員会作り、職員のスキルアップに役立てている。又、所内・所外の研修は随時参加している。実践者研修や介護福祉士の資格取得に向け、働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、開催の研修会や講習会に積極的に参加し情報交換をしている。他事業所の行事にも参加しサービスの向上に努め始めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に困っていることや要望等を、ご家族様も含めてじっくり伺い、ご本人様が安心できるように、ご本人様の性格・大事にしている物・苦手なもの等を踏まえつつご本人様が、安心できる信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談からサービス導入まで、ご家族様がより多く相談できるような機会をもち、困っていることや要望を、しっかり傾聴し、より安心できるご家族様との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で、ご本人様とご家族様が今求めているサービスは、何なのか充分見極め対応している。必要時は外部サービスも検討・導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他利用者様と生活を一緒にする仲間同士として、できる部分の掃除・調理・洗濯物干し・洗濯物畳み・草むしり・野菜収穫等をしながら、各自の役割関の充実や安心感の充実、又より深い人間関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆はとても大事にし、協力頂ける家族には、月1回の定期病院受診同伴や面会・外出・夏祭りでの家族参加等で、家族関係でできる事をお願いし、共に支えて行く関係性等、連携を密に図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(子供や孫)が面会に来られ、又家族と一緒に買物・レストラン・温泉・お墓参りに行き馴染みの親族にもあつてきたりしている。又入所前に通っていた床屋にもご家族と一緒に行き馴染みの人や場の関係性の支援は大事にしている。	入居前のかかりつけ理髪店へ通ったり、親族と一緒に温泉や墓参りに行っている。事業所の行事にも家族の参加を呼びかけたり、家族会と合同で行事を行うなど「家族との絆」を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いにカラオケをしたり、レクリエーション・将棋等して孤立しないように利用者同士関わりあいを深め、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院し、退去後も面会に伺い、ご本人様やご家族様の経過を見守りながら、相談や支援継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の日常生活の中から、ご利用者様の希望や意向を確認。又御家族様が面会時に状態報告し意向確認。それを意見・要望等記録書にまとめ把握、検討してる。	利用者との会話から思いや意向を確認している。家族からは、家族との面会時に家族の意向を把握し利用者中心の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、馴染みの物などを出来るだけ、ご本人様やご家族様に聞き、把握し記録している。職員で情報共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の毎日の健康状態・過ごし方や行動等記録し、情報の共有化を図り、職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様には、日常生活から希望ややりたい事を伺い残存能力も観察し、ご家族様には面会時に要望伺い、ご利用者様・ご家族様・必要な関係者と話し合い、一人ひとりの現状に応じた介護計画を作成している。	利用者の思い、家族の意向をふまえ、介護計画の進捗状況を考慮し、利用者・家族・必要な関係者と協議し利用者の状況の変化に応じた新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアや実践、結果、気づき等記録し、情報の共有化図りながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況やニーズに柔軟に対応し、サービスの多機能化として訪問マッサージや訪問歯科サービスの導入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・民生委員・理美容院・消防署・慰問ボランティア・地域の清掃等の地域資源の把握。活用し安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望でかかりつけ医との継続受診支援している。家族付添時は、症状等わかりやすく説明し、必要時は症状など紙面で医師に情報提供し、受診結果は家族から聞き取っている。職員付き添い受診時は電話で結果をご家族様に報告している	定期的な診察は家族が付き添っている。家族には利用者の身体の状態や薬剤の有無等の情報を職員から報告し、帰ってきた時に受診時の報告を家族から受けることにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、毎日、日常生活の情報や気づき、体調変化等を施設内の准看護師に報告。必要時かかりつけ医に連絡し相談しながら健康管理。適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、安心して治療でき早期に退院できるように入院時は付添い情報を説明し、退院での方向性検討会にも参加し病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」は作成している。身体状況悪化が想定される時は、医師と連携し終末期のあり方について説明し同意を得ている。チーム支援に取り組んでいる。	利用者の身体の変化に合わせ主治医・ソーシャルワーカーと共に本人の希望・家族の要望を得ながらチーム編成し対応する体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備え救急蘇生法全般の所内研修回に参加し救急蘇生法を実践した。年2回程度の定期的訓練で実践力を身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の実態に即した、夜間想定の方針訓練(避難・通報・消火)を4回実施。日中想定の方針訓練も2回実施。地域防災協力員も参加する。非常用食料品の備蓄している。毎月どのような災害でも対応できるように全職員訓練している。	昼間・夜間ともにスムーズな避難が出来るよう消防署の指導を受け毎月訓練を実施している。実施後の反省も行われている。地域の協力体制も図られている。	火災時の避難場所が遠方であるので、近くに避難場所を確保することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の行動指針が策定されており、職員は毎日、朝の申し送り時に復唱する。言葉かけや対応には、一人ひとりの気持ちを大事にし、その人にあった声かけで、誇りやプライバシーを損ねない支援をしている。	排泄時にタオルや毛布を掛ける配慮をしたり、相談事は居室で行うなど利用者の誇りを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が自分の思いや希望を表しやすく、自己決定できるように解り易い言葉で、且つ尊厳を持った態度で説明し、納得された上で自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝時間等の生活ペースについては特に時間的規制はなく、その人らしい暮らしができるように希望にそって支援。入浴時間についてもできるだけ希望時間提供支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容でその人らしいお洒落をしたり、毎日の着用衣服選択でも、希望衣服を聞きながら着用し、その人らしいお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	誕生日には、利用者のリクエストメニューを取り入れている。又食べたいメニュー等利用者に関心しながら献立の作成。調理も職員と一緒にできる部分の下準備。食事と一緒に同じもの食べ食後は食器洗いをできる部分実施。一人ひとりの力を生かす楽しい食事時間となる支援をしている。	なにげない日常会話の中から食事の好みを聞き取ったり、利用者に合わせた食材の切り方を工夫している。女性が調理をし男性が味見をする等それぞれの役割が出来ている。近くの農家の方から新鮮な野菜が届くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は毎日チェック表に記入し把握。体調不良や食欲減退時は主治医に報告し嗜好品の提供。食事介助等し一人ひとりの状態に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持は、できる人には声かけし見守りでいない人には、洗面所に車椅子で連れて行き一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で時系列的に一人ひとりの排泄状況を把握している。把握した排泄状況や各自の仕草等でトイレ誘導し、排泄に向けた自立支援に努めている。	排泄チェック表で職員は利用者の排泄状況を把握しておりタイミングを外さずトイレ誘導をしている。おもらしやオムツの使用を減らすよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や予防に関して理解し工夫に取り組んでいる。水分を充分にとり、運動量の少ない人には、昼間の体操等に積極的に参加してもらい、食事形体も排便を促す牛乳やヨーグルトの提供等で予防と対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、利用者の希望に応じ入浴できるように、声かけを行い本人の希望に応じた入浴実施。入浴時間も希望に応じている。入浴を好まない方は体調に応じ清拭やシャワー浴し、個々の沿った支援をしている。	湯加減を確認し、足元の安全確保にも気を配っている。入浴を好まない利用者にも週4回は入浴してもらえるように努めている。職員が付き添いゆっくり話をしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の活動状況や、その時の状況で不眠もあるが、不安で不眠時等は話を傾聴し、不安の軽減や除去に努め、背中をさすりながら安心して、眠れるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て事業所で預かり、服薬指示回数に基づき、職員が服薬確認・服薬介助実施している。一人ひとりの処方内容や副作用について把握につとめ、状態変化時は記録・主治医に連絡し情報提供して服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴から得意分野を見つけ、一人一人の持っている力を活かした掃除・洗濯もの干し・洗濯もの畳・調理の下準備・茶碗洗い・園芸等で役割感の充実で気分転換、楽しみの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って散歩等日常的に実施している。普段いけない場所でも、本人の希望を取り入れ開成山のバラ園見学。熱海ノ足湯。簡保の宿の温泉で花見と温泉入浴支援。墓参りは家族の協力を得て行っている。	日常的に散歩を行っており、公園や足湯にも出かけている。家族の協力を得て外食や墓参り等外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では、お金は一切預からない。立替購入。請求時に一緒に納入となっている。小銭の管理できる人は、数名家族と本人話し合い小銭持参している。買い物の要望時は買い物支援をして品代頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より御家族様に電話をかけてほしいとの要望時は、電話をかけて、お部屋で話せるようにプライバシーの配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である、ホールには、毎月季節感漂うちぎり絵を作成し飾り、季節の行事は毎月1回実施しているので、その思い出写真もメッセージつきで、毎月飾り季節感あふれる居心地の良い工夫をしている。	畳の空間には炬燵もあり利用者は昼寝をしたり自由にくつろいでいる。ホールには季節に合ったちぎり絵等、廊下には外出先やイベントで撮った写真がきれいに飾られている。温度・湿度は空調で管理され快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階廊下で外の景色が見えるように置かれたソファ。ホール置かれたソファでは気の合う仲間と談笑しながらテレビ鑑賞も出来る。各自が思い、思いに過ごせるように居場所の工夫はしている。冬はコタツに入りながら、好きな時代劇のテレビを観賞できるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居心地良く、安心して生活出来るように馴染みのものを家族や本人と相談しながら、家族の写真・縫いぐるみ・人形・家具・仏壇等持参しお部屋に置き、毎日眺めている。その人らしく生活出来るように配慮している。	居室は明るく、家族の宿泊もできる広さである。趣味の手芸品が置かれ、夫や孫の写真、本人が作った作品がきれいに飾られ、その人らしく居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から廊下、トイレはバリアフリーとなっており、その人の能力に応じて杖歩行し見守りで生活出来るように支援。居室前に表札をつけ、トイレは案内表示を掲示する等し、混乱や不安を防ぎ、自立した生活が送れる様に支援している。		